

県中教育

随想

〇〇を入れない

県中教育事務所長 石幡 良子



私が小学校三年生の時の出来事です。

幼い時から健康で、病気が一つもなかった私が、珍しく熱を出して学校を休みました。病院で風邪と診断され、家でおとなしく寝ていると、夕方、近所の友達が、担任からの届け物を持って来てくれました。袋の中には、その日の給食（コッペパンとイチゴジャム）とお便りプリント、そして、先生からの手紙が入っていました。『良子がいらない三年四組は、〇〇を入れないコーヒーマスターのようなものだ。』

コーヒーマスター

〇〇は商品名なので書きませんが、当時流行していたコーヒーマスターを引用した内容でした。幼心にも、

「私がいないと、学級は物足りないんだ。三年四組には私が必要なんだ。」

そう感じたことを今でもはっきりと覚えています。次の日、まだ微熱はありましたが、張り切って学校に行ったことを思い出します。

先生は私の顔を見るなり、「今日のコーヒーマスターは、最高だな。やっぱりコーヒーマスターには〇〇が必要だ。」

三年生の私でも、自己存在感を感じる事ができた言葉でした。何気ない担任からの一言ではありますが、その日から、私もこんな先生になりたい、『将来の夢は学校の先生』と思うようになりました。教員は、人を育てる夢のある素晴らしい職業です。しか

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所
発行責任者
石幡 良子
編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

し、現在、福島県のみならず、全国的に教員不足が問題となつていきます。先日、令和二年度の福島県教員採用試験の志願者数が公表になりましたが、年々教員を目指す者が減つてきているのが現実です。なぜなのでしょう。教員は多忙というイメージが広がっているからなのでしょう。教員に魅力を感じないのでしょ

うか。

教員である私たちが今やらなければならぬこと。それは、目の前の子どもたちが、自分たちの姿を見て、憧れ、

「私も教員になりたい」と思える存在になることだと思えます。教員は多忙というイメージを払拭するために、働き方改革を進めるとともに、

教員一人一人が明るく笑顔で元気に教壇に立ち、子ども心に響く言葉かけをすることが不可欠だと私は考えます。

みなさん、福島県の未来のために、本気で『教員の魅力』を発信していきましょう。

かがみいし田んぼアート

鏡石町教育委員会教育長 渡部 修一



「田んぼアート」というものをご存知でしょうか。田んぼをキャンバスに見立て、そこに色の異なる稲を植えることによって、巨大な絵や文字を作り出すもので、平成五年に青森県田舎館村が村おこしの一環として始めたのが最初だとされています。今では全国二百を超す市町村で行われるようになり、毎年「全国田んぼアートサミット」も開催されています。

鏡石町が「田んぼアート」事業を始めたのは東日本大震災後の平成二十四年です。震災からの復興（福幸）のシンボルとして、十二の団体でつくる「かがみいし田んぼアート実行委員会」が中心となり、

「窓から眺める絵本」も一つの図書館」をコンセプトに、町図書館に隣接する田んぼで、町民と一般参加者が一体となって自然のアートを作出してきました。

八回目となる今年の絵柄は湖川友謙氏（アニメーター）作成の「眠れる森の美女」。

五月二十六日、事前申し込みによる町内外二百五十人を超える参加者によって、約七十アールの田んぼで田植えが行われ、原画をもとに、岩瀬農業高校の生徒が中心となつて測量し作成した区画毎に、六色九種類の稲の苗が整然と植えられました。（岩瀬農業高校の生徒は、測量だけでなく、種まき・育苗から稲刈り・脱穀まで活躍してくれています。）稲の色のコントラストが最高になる七月中旬から八月中旬までが一番の見頃です。まだ見たことがないという方は是非、鏡石町図書館に足を運んでいただき、四階の展望室から「眠れる森の美女」の雄大な景色を観覧ください。ちなみに、今年も観覧料は無料です。

「田んぼアート」観覧後も一階の図書館で読書したり、文部省唱歌「まきばの朝」のモデルとなった岩瀬牧場で遊んだりと楽しく過ごせます。この夏休み、ご家族で『かがみいし田んぼアート』を観覧においでください。電車でも鏡石駅から徒歩一分です。

初任者紹介3ヶ月を振り返りて

三春町立岩江幼稚園



白旗 佳苗

四月から幼稚園教諭として働き始め、あっという間に三か月が過ぎました。新しい環境に戸惑いや不安が多くありましたが、優しく頼れる素敵な先生方とかわいい子どもたちで囲まれて毎日を楽しく過ごしています。恵まれた環境で働けることをとても幸せに思います。

石川町立石川小学校



伊藤 遥

小学校教諭として石川小学校で働き始めて、あっという間に三か月が過ぎました。新しい環境に、緊張や不安もありましたが、周りの先生方に支えていただき、たくさんの方から教えていただきながら毎日過ごしています。

郡山市立富田中学校



曾根 幹二

慣れ親しんだ地元を離れ、四月から郡山市立富田中学校に赴任しました。様々なことでの不安な日々でしたが、優しくご指導してくださる先輩の先生方、令和元年に出会えた初任者の先生方、そして何より、毎日明るく元気な生徒たちのおかげで、充実した生活を送ることができています。

県立岩瀬農業高等学校



小林 龍平

四月より高等学校教諭として岩瀬農業高等学校に勤めています。昨年度は常勤講師として現任校に勤めていました。生徒の状況や職場の雰囲気にも慣れてきたところで、昨年度より御指導をいただき、先生方と共に働くことができて嬉びと、立場が変わることへの不安を抱きながら、四月から早いもので三か月が過ぎました。

須賀川市立小塩江小学校



武藤 真生

夢と希望に溢れて、この四月から養護教諭として須賀川市立小塩江小学校に着任し、勤務を始めて三か月が経ちました。今、先生の仕事の難しさや忙しさを身をもって実感し、自分の力不足を感じる日々です。

四月当初は、学校の時間の流れや学級経営、授業の進め方など戸惑うことばかりで、見通しをもてずに時間ばかりが過ぎていきました。そのうな中でも、子どもたちは私にたくさん話しかけてくれました。私は、自分だけが焦っていたと気づきました。それからは、何事も子どもと一緒にする、子どものためにするということをさらに大切にしようと思いました。

子どもたちと過ごす日々は、喜怒哀楽にあふれています。勉強が分かった！今日はこれで良かった！休み時間に遊んで楽しかった！友達とけんかをしてしまった！など。たくさんさんの表情を見せてくれる子どもたちと一緒に、しなやかな心で学び続ける教師になりたいと思います。

「初心忘るべからず」という言葉があります。今年一年間の気持ちを忘れず、研修で学んだこと、出会った先生方から学んだこと、今まで体験したこと、未来を担う生徒たちに伝え、生きる力を育む手助けをしたいと思います。そして、大好きな福島県のために貢献していくことを誓います。

初任者研修を通して、教育は信頼をなくしては成り立たないことを痛感し、生徒の家庭環境の把握を含めた生徒理解に心がけながら、指導に努めていきたいと感じています。また、たくさんさんの素晴らしい同期の先生方とも出会うことができ、不安や悩みを抱えながら、助けていただきながら充実した日々を過ごしています。

今後は福島県の高等学校教諭として、福島県の未来を担う子どもたちが笑顔で豊かな人生を歩めるよう、生徒のことを最優先に考え、精一杯、生徒に向き合える教員を目指して努力し続けていきたいと思っています。

未来を担う子どもたちの将来を輝くものにするためにも、生きる基盤となる健康を支援し、子どもたちの笑顔を守る養護教諭を目指して、さらに頑張っていきたいと思います。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課
社会教育担当より

「県中域内地域連携担当
当教職員等研修会」

今年度より各学校の校務分掌に位置付けられた「地域連携担当教職員」を主な対象とした初の研修会を七月二日、郡山市労働福祉会館で開催し、一四名の参加がありました。はじめに、県社会教育課より地域連携担当教職員に期待される役割や地域と学校の協働の必要性等について講話を行いました。また、尚絅学院大学教授松田道雄先生より地域と学校が協働していくことのよさについての講演をいただきました。講演ではグループ協議の場が設定され、小、中、義務、県立学校教職員で編成された小グループで活発な意見交換がなされました。また、県委託事業「地域学校協働活動事業」を実施している天栄村で地域連携担当教職員を平成二十九年度より二年間務めた郡山市立郡山第一中学校教諭金澤喜一先生から、具体的な取組やその成果と課題等について実践発表がありました。今後も県中教育事務所では、要請に応じた学校への支援や公民館及び社会教育団体等への情報提供を行い、学校教育の充実と地域の活性化が一体となつて推進されるよう努めてまいります。

「読書活動支援者育成
事業研修会」

子ども豊かな読書活動を支えるために、各地で活躍する読書活動支援者の方々の技術向上と新規支援者育成をねらいとして、六月十九日、郡山市労働福祉会館で研修会を開催しました。当日は、学校司書や読み聞かせボランティアの方、図書館司書の方など六十九名の参加がありました。研修会では、小野町で活躍されている籠田まさ子さんの語り部の実演、平成三十二年度子供の読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受けた郡山市立芳賀小学校の実践を発表していただきました。午後の部には、東京より科学読物研究会の坂口美佳子さんをお招きして、「科学の本っておもしろい子どもと楽しむ科学遊びと本」と題して、講演および演習を行いました。参加者の方々からは「自分でも語り部をやってみようと思った」、「芳賀小学校の図書室に行つて見てみたい。」、「科学の本ってこんなに面白くも思わなかった。」との声をたくさん聞くことができました。



学校教育課管理担当より

教職員の健康維持と
事故防止について

事故防止について

信頼される学校づくりのためには、教職員が心身ともに健康で笑顔で勤務し、事故を起こさない環境づくりが大切です。

- 心身の健康のために
- ・教職員の和を大切にし、お互いの個性や実情を理解した協働体制の構築
- ・ハラスメントのない風通しの良い職員室
- ・多忙化解消アクションプラン推進によるゆとりの創出

○教職員の事故防止のために

- ・自己の体力、能力を理解した行動と過信の排除
- ・学校行事の準備等での安全管理と複数体制による作業
- ・わいせつ、体罰、飲酒運転の絶無に向けた堅実な取組
- ・各学校の課題解決に向けた実効性のある服務倫理委員会の開催
- ・事故を絶対に起こさないという教職員の意識改革

県中教育事務所としましては、市町村教育委員会や各学校との連携を密にし、具体的な助言をしながら各学校の教育活動が充実したものであるよう支援してまいります。

学校教育課指導担当より

「ふくしま学力調査」
について

について

さる四月十一日、小学校四年生・六年生及び中学校一・二年生において、初めての「ふくしま学力調査」が行われました。その特長について確認します。

特長その一、問題の難易度を考慮に入れて学力を測定し、次年度以降から学力の伸びを継続して把握することができるとの調査設計をしています。

特長その二、学力との相関関係が高いといわれている非認知能力(自制心、自己効力感、勤勉性など)の高まりを質問紙調査から見ることでできるようになります。

特長その三、学力を伸ばしている効果的な指導方法や、非認知能力を醸成する効果的な指導の在り方を明らかにします。それらを授業改善や、個に応じたきめ細かな指導や支援に生かし、一人一人を確実に伸ばす教育を推進します。

「チーム学校」として、自校の調査結果から実態を把握したり、取組の効果を分析したりするなど、課題と方策を共有して授業改善に取り組むことが大切です。

「切れ目のない
支援体制整備事業」
について

について

本県の「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」は、特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から卒業後までの切れ目のない支援体制構築のため、小・中学校等や関係機関との連携を図りながら養育や教育に関する相談支援体制の充実を図るものです。

この事業の小事業にあたるのが「切れ目のない支援体制整備事業」で、県立特別支援学校二十三校に地域支援センター(相談窓口)を設置し、本校十五校に一名ずつ教育支援アドバイザーを配置して、相談体制の充実や関係機関との連携強化を図っています。

特に、特別な支援を必要とする子どもたちの指導・支援の充実に向けては、特別支援学校・特別支援教育センター・教育事務所のチームで「研修支援」「相談支援」を実施しています。「特別支援教育に関する校内研修を充実させたい」「障がいのある幼児・児童・生徒の指導・支援を充実させたい」等、ニーズに応じた支援を行いますので、県中教育事務所(〇二四一九三五―一四八五)までお問い合わせください。